

令和7年度 指定管理施設の管理運営に関する月次評価について

施設所管課名：こども家庭支援センターこども家庭支援課

1 施設概要

施設名称	横須賀市療育相談センター
指定管理者名	社会福祉法人青い鳥
指定期間	令和6年4月1日～令和16年3月31日（10年間）

2 月次評価

評価月	評価
4月	<ul style="list-style-type: none">・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、円滑かつ安定した運営が行われていた。・診療部門においては、初診 90 名、再診 1,110 名と、継続的な診療体制が確保されていた。診療所においては電子カルテシステムが導入されており、今後の事務効率化やサービス向上が期待される。・通園施設では、4月8日に入園式が実施され、29名の新入園児が加わった。「年度初めの会」においては施設の基本方針や年間行事について説明があり、さらにアーカイブ配信を期間限定で行うことで、参加できなかつた保護者にも配慮がなされていた。・地域生活支援部門の療育教室については、参加児童数の増加に対応して2クラスが新設された。各回の参加率も高く、盛況なスタートとなっている。今後も利用児童や保護者のニーズに応える継続的な運営が期待される。
5月	<ul style="list-style-type: none">・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、円滑かつ安定した運営が行われていた。・診療部門においては、初診 81 名、再診 1,285 名と、継続的な診療体制が確保されていた。・通園部門、地域生活支援部門では、通園併行利用児及び診療所利用児を対象に、今年度最初の巡回訪問を開始。5月は延 23 施設を訪問した。在籍児の約 8割が併行通園のため、訪問先も対象児も多い中、センター内での支援にとどまることなく、外への支援にも力を入れていることが窺える。・地域生活支援部門では、市内の健康福祉センターそれぞれと情報交換の機会を設け、地域での連携を図っていた。・教育委員会と合同で就学説明会を開催し、通園年長児童・外来利用児童の保護者向けに、就学に向けての情報提供を行った。保護者の関心も高く、計 195 名の参加があった。今後も保護者の様々な不安に寄り添い、ライフ

	ステージに合わせた情報を細やかに提供しながら、不安解消に繋がるような支援を継続してもらいたい。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、円滑かつ安定した運営が行われていた。 ・診療部門においては、初診 92 名、再診 1,297 名と、継続的な診療体制が確保されていた。 ・通園部門では、武山支援学校と市立養護学校の見学会やピアカウンセリングを開催。今後の就学に向けた保護者支援を実施していた。 ・開所から 17 年が経過し、建物や設備にも老朽化が見られるが、指定管理者において日々の安全点検をしっかりと行っており、不具合が確認できた場合は、市への報告も速やかに行われている。施設管理、事故の未然防止に対する意識を職員一人一人が高く持っている点を評価する。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、円滑かつ安定した運営が行われていた。 ・診療部門においては、初診 96 名、再診 1,368 名と、継続的な診療体制が確保されていた。 ・地域生活支援部門では、6月・7月に新規の相談が多く、予約のあった 68 名の初回面談を行った。所属している園等からの勧めで相談に来られる方が多かった。 ・全部門において、外部からの専門職研修や見学の受け入れを行っていた。 ・津波警報発令の際は、ちょうど通園施設の登園時刻と重なっていたが、指定管理者の迅速な判断のもと、児童はバス到着後すぐに高層階へ避難し、夕方まで無事に過ごすことができていた。また、診療所でも大きな混乱はなかった。利用者の避難に特に配慮が必要な施設であるため、日頃から様々な状況をシミュレーションした訓練を実施しているが、実際の避難の際も、利用者の安全を最優先した適切な対応が取られていた。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、円滑かつ安定した運営が行われていた。 ・診療部門においては、初診 94 名、再診 949 名と、継続的な診療体制が確保されていた。 ・8/6 に開催した療育講演会は、一般聴講者 47 名であった。「授業のユニバーサルデザイン」というテーマから、聴講者の多くが教員や保育者等の支援者であり、現場で生かせる支援を学ぶ場として、貴重な機会を提供できていた。 ・子育て支援課の依頼により、放課後子ども教室コーディネーター研修において、心理士とソーシャルワーカーが講師を務め、発達障害の基本的な知識や子どもへの対応などの話をした。専門職でない支援者にとって、日頃の子どもとの関わり方を考える有意義な研修となったようだ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士らによる「車いすが必要な中高生の情報交換会」を初開催した。現役高校生から登下校の状況や校内環境等の情報を聞くことで、高校受験の際の参考にもらうほか、保護者を含め関係者同士の交流を図った。センターの役割として、年齢段階に応じた良質な情報提供が求められている中、新たな取り組みを実施し、今後も検討していきたいという前向きな姿勢を高く評価する。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、円滑かつ安定した運営が行われていた。 ・診療部門においては、初診 78 名、再診 1,246 名と、継続的な診療体制が確保されていた。 ・療育相談センターでは、多職種によるチーム支援体制を取っている。今月は、それぞれの職種の専門性や立場を理解し、職種間の垣根を減らすことで、より円滑に子ども視点のチーム支援を行うことを目指し、コミュニケーションに重点を置いた職員全体研修を実施していた。各部門の職員が研修委員となって、創意工夫のもと様々な研修を企画し、スキルアップや連携に努めている様子が窺えた。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、円滑かつ安定した運営が行われていた。 ・診療部門においては、初診 94 名、再診 1,339 名と、継続的な診療体制が確保されていた。 ・地域生活支援部門では、障害福祉課主催の「発達支援コーディネーター研修」「放課後児童クラブ指導員障害児支援研修」において、各専門職の職員らが講師を務め、センターや発達障害児の支援についての理解を深めてもらった。 ・家族支援として、「不器用の理解と工夫」をテーマに家族セミナーを開催。作業療法士が講師を務め、センター利用児の保護者 5 名が参加した。毎年度、様々なテーマによるセミナーを検討・企画しているところからも、利用者のニーズに応えようとする姿勢が窺える。 ・ひまわり園では、10 月に新たに 14 名が入園し、親子クラスが 1 クラス増設された。また、地域の同年齢のこどもとの交流を目的とした交流保育を実施。今回は、2 日間にわたり中央こども園の 5 歳児（延 46 人）がひまわり園に来園した。こども達は、1 時間ほどリレーやパラバルーン等の活動で一緒に体を動かし楽しんだとのこと。インクルージョンの推進が求められる中、出向くだけでなく“来てもらう”ことも相互理解を深める良い機会になるのでは、という新たな試みを高く評価する。今後も様々な園との交流保育が活発に行われることを期待している。

11月	<ul style="list-style-type: none"> 診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、円滑かつ安定した運営が行われていた。 診療部門においては、初診 83 名、再診 1,125 名と、継続的な診療体制が確保されていた。 地域生活支援部門では、通常業務に加え、医ケアコーディネーター定例会において病院や支援教育課からの相談に応じ、連携を図っていた。 電話相談の対応に関して、相談者の方からいただいたご意見について、すぐにセンター内で共有し、反省と今後の業務へどう反映していくか、真摯に検討していた。 ひまわり園では、3クラスで「あーすぶらざ」への遠足を実施した。児童の身体の状態に合わせ、現地集合・現地解散も可能とするなど、利用者への配慮がなされていた。
12月	<ul style="list-style-type: none"> 診療部門・地域生活支援部門・通園部門のいずれにおいても、円滑かつ安定した運営が行われていた。 12月の相談受理件数は電話相談 459 件、来所相談 147 件、会場相談 103 件で合計 709 件と高い対応実績を示している。 通園部門では、児童・保護者向けクリスマス会を開催。きょうだい児支援にも着目したプログラムを用意し、きょうだい児と保護者も含めた 251 名が参加するなど、利用者サービスの充実が図られていた。 各教室（療育教室、早期療育教室、親子教室）への参加人数も充分であり、専門職（心理士、言語療法士、看護師等）も適切に配置されている。
1月	
2月	
3月	